

完了後の評価個表

整理番号 森2-1

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	北海道
地区名	豊浦町	事業実施主体	北海道、豊浦町、胆振西部森林組合等
関係市町村	豊浦町	管理主体	北海道、豊浦町、胆振西部森林組合等
事業実施期間	H15～H19（5年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>① 位置等 豊浦町は、北海道中央南部の胆振総合振興局管内に属し、後志・胆振の振興局界に位置する昆布岳に連なる山地から内浦湾（噴火湾）に向けて順次高度を下げた台地地形を呈し、東は洞爺湖町、真狩村、北はニセコ町、西は蘭越町、黒松内町、長万部町にし、南は内浦湾（噴火湾）に面している。 産業としては、水産業と農業が主要な基幹産業であり、林業においては、水質の保全など水産業と密接な関係を持ち、海洋資源の畜養などに大きな役割を果たしている。</p> <p>② 森林の状況 当町の森林面積17,828ha（森林率76.4%）のうち、民有林面積は17,716haで森林全体の99%を占めており、内訳は道有林が4,791ha（27%）、町有林が1,301ha（7%）、私有林が11,624ha（66%）となっている。 民有林の人工林面積は4,189ha（人工林率24%）であり、樹種はトドマツとカラマツが大半を占め、Ⅶ齢級以下の森林が50%を占めている。</p> <p>③ 当地区を整備する目的・意義 当町においてはこれまでに4,189haの人工林が造成され、森林蓄積は着実に増加しているものの、その多くはⅦ齢級以下で除・間伐等の保育を必要としているが、木材価格の低迷等に伴い、森林所有者の施業意欲が減退しており、森林の有する多面的機能の高度発揮が懸念される状況にあった。 また、森林経営の基盤となる林道等の路網が不十分（14年度末の林内路網密度10.2m/ha）であったことから、適切な森林施業の実施や効率的な木材生産に支障を来していた。 このため、計画的に除・間伐等の森林施業を推進するとともに、路網が必要な森林において林道を開設することにより、森林の有する多面的機能の維持・増進を図り、もって森林環境の保全に資することを目的として事業を導入した。</p> <p>（事業概要） 森林整備 植栽 357ha 下刈 2,327ha 除間伐 379ha 受光伐 71ha 作業路整備 7,219m</p> <p>森林管理道整備</p> <p>① 新富新山梨線 車道幅員 3.0m 開設延長 2,956m 利用区域面積 590ha ② 礼文チャス線 車道幅員 4.0m 開設延長 1,102m 利用区域面積 231ha ③ 大和 大西線 車道幅員 3.0m 開設延長 698m 利用区域面積 97ha ④ 新 富 線 車道幅員 3.0m 開設延長 2,685m 利用区域面積 257ha</p> <p>総事業費 1,137,051千円 （当初総事業費 1,527,123千円）</p>
----------	--

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成25年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 なお、間伐の優先実施等による事業内容の変更に伴い、事業採択時に比べ総事業費が減となったが、施業面積（便益発生対象区域）の増により総便益・総費用が増加となった。</p> <table border="0"> <tr> <td>総便益（B）</td> <td>11,195,651千円</td> <td>（事業採択時</td> <td>10,118,846千円）</td> </tr> <tr> <td>総費用（C）</td> <td>2,671,061千円</td> <td>（事業採択時</td> <td>2,371,591千円）</td> </tr> <tr> <td>分析結果（B/C）</td> <td>4.19</td> <td>（事業採択時</td> <td>4.27）</td> </tr> </table>	総便益（B）	11,195,651千円	（事業採択時	10,118,846千円）	総費用（C）	2,671,061千円	（事業採択時	2,371,591千円）	分析結果（B/C）	4.19	（事業採択時	4.27）
総便益（B）	11,195,651千円	（事業採択時	10,118,846千円）										
総費用（C）	2,671,061千円	（事業採択時	2,371,591千円）										
分析結果（B/C）	4.19	（事業採択時	4.27）										

② 事業効果の発現状況	<p>本事業で植栽されたトドマツやカラマツの成長は良好であり、除・間伐等の施業を行った人工林も多様な環境を持つ健全な山林として育成されており、木材生産のほか水源かん養機能等の公益的機能が期待される森林が整備された。 林道が整備された区域においては、森林施業の効率化、木材生産の低コスト化が図られたことから、間伐等の森林整備面積が整備以前の5年間では22haであったものが、整備後5年間では78ha（3.5倍）に増加している。</p>
-------------	--

<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<p>当事業で整備された森林は、森林所有者自ら、又は、森林所有者から経営受託した森林組合が適正に管理を行っており、特に新たに植栽を行った森林については、その後も下刈り等の保育施策が適切に実施されている。 開設した林道4路線については、豊浦町が管理者となって草刈や側溝掃除等、町が定めた林道維持管理規程に基づき、適正に維持管理している。</p>
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<p>森林組合等による植栽、除・間伐等の森林施策が実施された森林は、不用木の除去や不良木の淘汰等が適切に行われ、明るく健全な林分に改善された。 林道開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>林業労働の軽減、森林施策コストの低減が図られ、将来の木材供給源としての期待がより一層高まってきている。 森林整備が行われる一方、本林道を通じて山菜採取等に森林を利用する地元住民が増加しており、森林に対する理解が深まりつつある。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>森林施策の実施に対する意欲が徐々に増進されてきているが、森林所有者の後継者不足や木材需要の低迷等により間伐等の実施状況が十分とは言えない状況であることから、森林所有者に対する普及啓発等を積極的に行い、適正な森林施策の実施を促進する必要がある。</p> <p>(地元の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林整備事業実施による土砂流出の防止、水源かん養機能等の公益的機能の高度発揮に寄与している。(北海道) ・ 林道の開設後は、森林散策へ訪れる者が増加してきているとともに、森林災害等の早期発見に寄与している。(豊浦町) ・ 森林施策の集約化を図り低コスト化を促進し、森林所有者の林業経営意欲の向上を図るため、計画的かつ効率的な森林施策の実施に努める必要がある。(森林組合)
<p>評価結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 森林の有する多面的機能の維持・増進を図るための森林整備が計画的に実施されていること、造林、保育、素材生産等の施策を効率的に行うためのネットワークであり、林業の最も重要な生産基盤である路網が整備されたこと等から事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 森林整備については、喫緊の課題である間伐を優先的に実施していること、林道整備については、現地に応じた最も効果的かつ効率的な線形の設定に努め工種・工法の選定に当たってもコスト縮減に努めていること等から事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 適切な森林施策の実施により森林の有する多面的機能の維持・増進に寄与していること、林道整備により森林整備面積が増加していること、さらに持続的な森林経営と間伐等の生産性向上に向け、地域をあげた取組に繋がっていること等から事業の有効性が認められる。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業

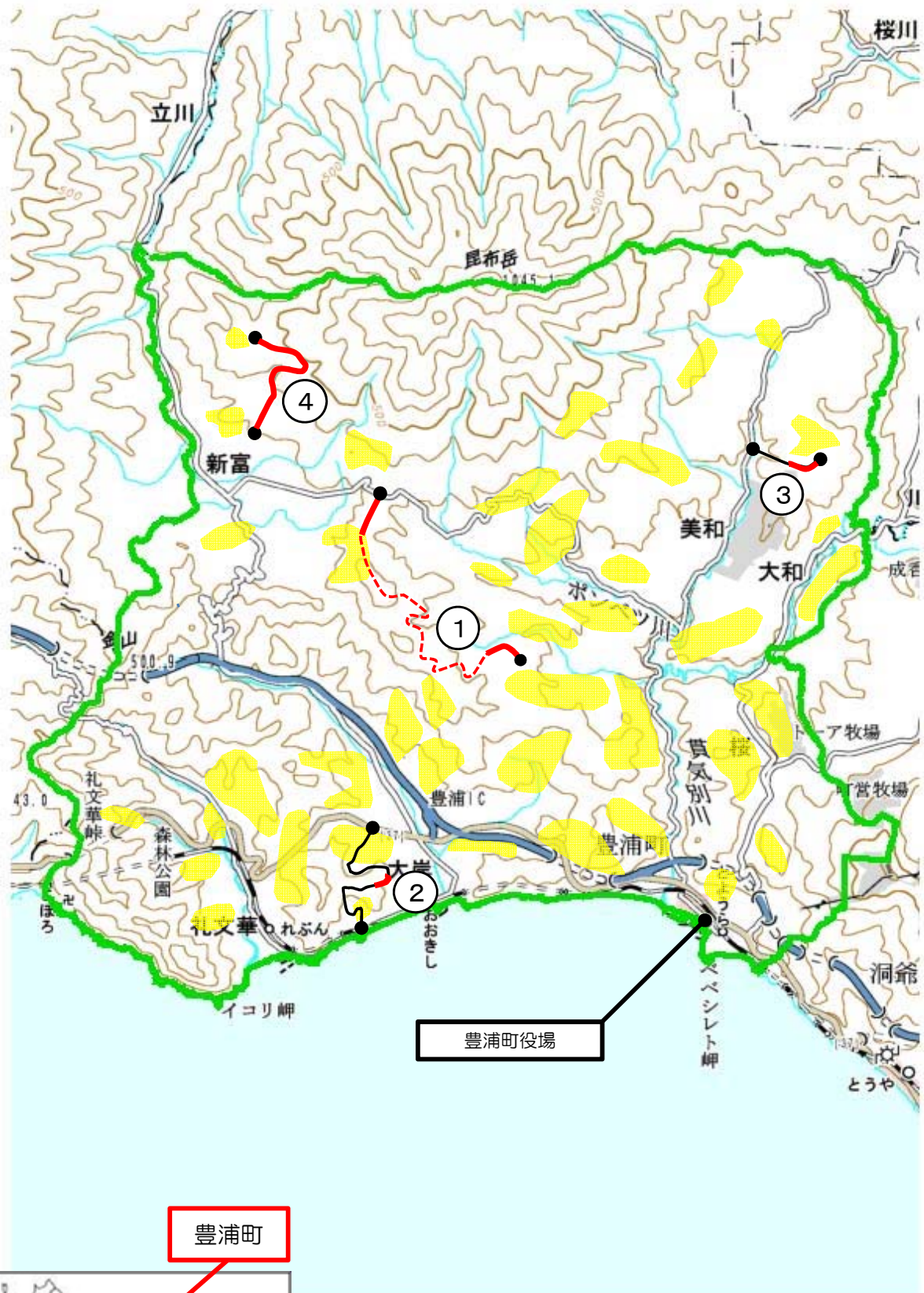
都道府県名: 北海道

地域(地区)名: 豊浦町^{とようらちょう}

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	2,143,648	
	流域貯水便益	686,708	
	水質浄化便益	1,464,785	
山地保全便益	土砂流出防止便益	3,702,997	
	土砂崩壊防止便益	291,030	
環境保全便益	炭素固定便益	1,035,201	
木材生産等便益	木材利用増進便益	6,743	
	木材生産確保・増進便益	788,387	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	1,076,152	
総 便 益 (B)		11,195,651	
総 費 用 (C)		2,671,061	
費用便益比	$B \div C = \frac{11,195,651}{2,671,061} = 4.19$		

森林環境保全整備事業 豊浦町地区 概要図 【北海道】



豊浦町



凡	例	
市 町 村 界		森林整備
施工箇所 (林道整備)		① 森林管理道 新富新山梨線
未施工 (林道整備)		② 森林管理道 礼文チャス線
施工済 (林道整備)		③ 森林管理道 大和大西線
		④ 森林管理道 新富線